

玉野市立学校適正規模・適正配置検討委員会 第4回会議 会議録（概要）

■日時 令和5年4月26日（水）15：00～17：00

■場所 産業振興ビル

■出席者 ○委員 15人

金川 舞貴子委員長 栗林 太一郎副委員長

中島 正人委員 木津 直美委員 森 幸絵委員 大内 雄一郎委員 西宇可奈子委員

兼松 勲委員 今井 克則委員 木村 俊一委員 諏訪 祐子委員 濱松 正江委員

三浦 康男委員 浅浪 康延委員 近藤 奈々委員

○事務局 5人

玉野市教育委員会教育長 多田 一也 教育次長 小崎 隆 教育総務課長 琵琶 学

学校教育課課長補佐 高木文彦 教育総務課課長補佐 清山 智保

○教育委員（オブザーバー） 3人

教育長職務代理者 三宅 英次、委員 太宰 実千代 委員 横山 純子

■傍聴者 8人（うち議員1人）

1 開会

事務局： 要綱第6条第2項により、委員の半数以上が出席しているので、会議として成立することを報告する。

教育長： 今、社会が大きく変化をしている中、社会で求められる人材も大きく変わってきている。学校教育も就学前、義務教育、高等学校と大きな改革の最中である。明治以来の改革であるというふうに言われることもある。学校現場では学校授業改善等の改革の最中だと思う。そういった中で、今までテストで点を取ったり、偏差値が出て、数値で表される「認知能力」、それに対して、他者とお互いに助け合って協働して何か課題解決したり、コミュニケーションを取ったり、思いやりの心とか、表現力判断力、こういったものを「非認知能力」とよく言われる。これからの時代は、AIが益々進歩してICTがもっと活用されるようになってくると、この非認知能力というのが非常に大事になってくる。このキーワードは他者との関わりだと思う。玉野市の教育も改革の最中であるが、今までの経緯を踏まえ、玉野市のこれからの10年後、20年後の教育の質を担保するために、それぞれの立場でご意見をいただきたい。

委員長： それぞれの方がそれぞれの立場で子供のこと、そして地域、家庭、全体のことを考えてご発言されているとひしひしと感じている。だからこそ、議論が難しいと感じているところだと思う。先ほど教育長が言ったような非認知的なところも含めて解決策、答えのないところを共に解決していくことを、我々が今、子どもに注視しながらやっている最中なんだろうなと思っている。この後ろ姿を見せていくところも大事なところかなと思っている。これからの議論は少し具体に向けて意見を固めていくべきかと思う。委員の皆様方にはこれまでと同じように、広くいろんな方々の意見を募っていただいて、この議論の場に出していただきながらそれぞれの立場での意見を言っていただきたい。

2 議事（要綱第6条第1項に基づき、金川委員長が議長となる。）

事務局： 議事に入る前に、第3回会議以降の適正規模化に関する事項について報告。

- ・「学校適正規模適正配置について広く市民に説明し市民の声をしっかり聞くことを求める要望書」の追加提出、
- ・山田中学校のPTA会長等から「玉野市立学校の適正規模・適正配置化検討に関する要望」の提出、
- ・玉野市の総合計画および行財政改革大綱のパブリックコメント、
- ・3月定例玉野市議会の一般質問について、資料に基づいて報告（第4回会議資料3～7に沿って説明）

(1) 第3回会議 会議録の確認

事務局： 議事録は事前に内容を確認いただいている。改めてお気づきの点があればご指摘いただきたい。（特になし）

(2) 中学校の学校規模について

委員長： ここからは、答申の策定に直接関わってくる議論に入る。会議は原則公開することとなるが、先ほど事務局の方からの議会報告の中にもありました通り、自由闊達な議論を実施するため委員の皆様が非公開を求められれば、会議を非公開とすることもできるが、いかがか？

委員1： 意見を遠慮している方がいるので、非公開の方がいいかなと思う。
<挙手にて賛成5名、反対3名、どちらでもよい7名>

委員長： 非公開に賛成の方が多かったということで、今回はここからの議論を非公開にする。議論がどのように行われたかに関しては、議事録で内容を公開していくことで、透明性はきちんと担保したいと思う。議論や議事に関しては、概要を示すということで公開にしていくという形でよろしいか。

（委員了承）

<傍聴人退出>

委員長： 今日のゴールとしては、小中学校で議論を分けて、中学校の規模について、どの規模が教育上望ましいと考えるかというところのおおよその結論を出したいと思う。委員会資料2のこれまでにした意見プラス学校訪問をして、先生方にインタビュー等で聞いた意見も加わると思う。それをもとに、答申の中に中学校の規模を考える上で、学校の運営、子どもの学習、教科指導など学校生活を進める上でのこととか、他にも観点としてはあるかもしれない。財政上の問題とかもあるかもしれない。地域との関わりという観点もあるかもしれない。いくつかの点でメリットデメリット、今まで意見が出てきたと思う。それを整理した上で、この委員会としては、こういう理由が重要だと思うとか、玉野においてはそこが大きな課題だとか、ここのメリットはやっぱり生かしたいとか、そういうことを考え出した上で結論として規模はやっぱりこの規模が適正だと思うところを出したいと思う。中学校の規模として、1学年の学級数は何学級がふさわしいか、学級の人数、1学級何人の子どもだったら、より教育上適正なのかを出していきたいと思う。その理由として何を残していくかというところを挙げていただきたい

い。今までのご意見であるところの資料を見ると、中学校の場合は結構意見が揃ってるところがあり、1学年3学級ぐらいならいいんじゃないかと、クラス替えということが前提でというようなご意見が一番多かったのかなと思う。部活の問題とか、その辺りご自由に意見を言っていただければいいかなと思う。学校の先生の立場を言われた方がやりやすいですかね。最初に学校のこれから求められる今日の教育と今の中学校の現状から、やっぱりこういう方が好ましいんじゃないかというところを少し先生の方から補足していただいて、皆さんにご意見をいただこうと思う。

委員 2 :

中学校の現場を預かる身として、最初教育長が言われたように、今本当に大きな教育改革が行われている。今までの子供たちに基礎基本を教えるという教育から、子供たちが自分から学ぶ教育へと授業も変わっている。だから、教師が全部教えるのではなく、子供たちが獲得できるように学ぶ道筋を立てていくスタイルに先生たちは今授業を改善している。1人1台の学習用端末を活用して、自分たちでわからないところを調べて、そして多様な意見が出てきたら、その多様な意見を端末に意見を書く。人の意見もその端末で、こんなふう考えてるのか、こんなふうな意見なんだと端末で見ることができる。多様な意見に触れることで、子供たちはたくさんのモデルに触れることができる。これは学習用端末を使った場合でも使わない場合でも、やっぱりクラスの中である程度の人数がいる中で、多様な意見に触れながら、協働しながら解決をしていくというような授業が求められている。岡山県も課題解決学習といって、課題や疑問を自分たちで持ったところについて協働で自分たちで解決をしていく力が今後社会に出て必要なんだと、わからないこと知らないことはAIで調べたらわかるので、そうではない力が求められている。また、非認知能力についても、子供たちが集団で生活していく中で、今私達が現場を見ていて、子供たちは本当に多様である。この多様な子供たちに1人の教員が、子供10人ぐらいでみれたら確かに手厚いかもしれないが、その10人に対しては1人の教員しかいない。ただ適正規模の学校になると、他にも学年主任がおり、それぞれ学年の副担任がおり、いろんな先生たちが子供に関われるので、その担任の先生とうまくいかななくても、いろんな立場のいろんな考えの先生がその子に接することによってその子は救われる。多様な子供に対しては、多様な大人の数が必要である。そのためにはある程度の規模が必要になってくるのかなと今現場を見ていて思う。さらに、多様な子供たちの中にすごく粘り強い子もいるし、すぐに諦めてしまう子もいる。すぐに諦めてしまう子も何か諦めずに頑張っている友達に刺激されて、「あんなふう自分もならなきゃな。」ということで子供たちが関わり合いながら成長していく。そういう相互作用というか、子供たち自身の力っていうのは、例えば極端な話で言うと、5人ぐらいのクラスの中で限られた人数よりはたくさんの関わりの中の方がそういう機会がある。子供たちの成長のために、ある程度の人数がいるからこそ望めるシナジー効果、そういったものが大切なのかなと思う。もう一つは教員の数が本当に不足している。子供の数に対して学校の数が多すぎるので、そこに配置される教員が足りない。講師も足りないというぐらいで、もっと言うと管理職の数も全然足りなくて昨日得た情報ですが、38歳から48歳までの教員がものすごく少ない。ベテランがおり、ミドルが抜け、また若手が増え。これから時代が進んで

いく中で、今の学校の数のままだと、38歳から48歳の教員層の中で小学校では2人に1人が管理職をしなくてはいけなくなる。管理職の質も問われるだろうし、現に直面している教員の数不足している。そういう問題も子供の数に対して学校の数が多すぎるといふようなところが出てきている。現場を預かる身としてはそういうものを解決しながら、今与えられた条件の中で子供たちのために教員は頑張っている。ただ限界に来てるのかなと感じながら、経営をしている。

委員長： 今のご意見、学びが変わっているということで、1人1人を大切にしながら教育していく、1人1人を大切にするという今までも手厚いことが良さとしてあった。その手厚さの質を見たときに、複数の目で多角的に子供を理解していくことが教育の質を高めていくし、実はそれは先生たちの力を高めていくことにもなるからより良い教育にもなっていく。あるいは人と関わる中で非認知能力といったものも含めて学びが深まっていくことでの学習面、先ほどの教員の数や経営面とか学校運営の面からの規模が一定数必要だという意見をいただいた。そのあたりも皆さんがやっぱり重要だということであれば答申の中にきちんと盛り込んでいく理由になってくると思う。今の賛同でも結構ですので、考えられるメリットデメリット、こういう規模感が必要じゃないかというご意見をいただければと思う。今まで出てきた意見では2クラス、あるいは3クラスといったところと思うが、それに対するご意見と、あと1クラスの人数に関してもご意見をいただきたい。

委員1： 最近の新聞やニュース等でも教員不足というのは、本当に深刻な問題で、びっくりしたのは2人に1人が管理職にならないといけないのは、本当に心配な話である。そうした中で、子供たちを先生方に任せるときにある程度の学校の規模にしておかないと、将来ちょっと・・・と改めて思った。規模については、前々から発言させてもらっているが、玉野市で1年間に生まれる子供の数が、200数十人と言われているが、小学校に上がる前に市外へ引っ越してしまうという中で、100名少し、200名少しと考えたときに、中学校であれば1学年3クラスぐらいと思うと二つぐらいの学校で、一つの学校に1学年3クラス。そのときの状況によるが、30数人ぐらいまでかな。私達が中学校のときは45人まで、46人になったら2クラスというのは経験したが30人から40人でも大丈夫なのかな。もっと少なくした方がいいということであればそれは全然いいが。30人前後ぐらいの一つのクラスだと、活動がやりやすいし、面白い学校生活が送れるんじゃないかと思う。

委員3： まず教員数が今不足している状態は前から聞いていたが、多分今に始まったことじゃないと思う。大体どの辺りから教員数が少なくなったと感じていたか教えてもらいたい。あと、38歳から48歳が基本的に不足していくのも、多分採用数がこの時期が少なかったのかなと思うが、2名に1名が管理職の状況も正直びっくりした。今、教育委員会ではこういう話は多分すごい出てると思うが、それに対してどのような対策とか会議を行っているのか教えてもらいたい。

委員2： その年代に限って言うと2人に1人ということなので、管理職についても能力のある人を、若い年代から自分たちがこのビジョンを持った教育をしていきたいという人を登用していくとか、人数の多い世代の若手を引っ張ってきて管理職にしていくとか、教員のスキルアップがこの問題に対しては対応されているところで

ある。それからいつ頃から減ってきたか、自分が感じるのは本当にここ4・5年とを感じる。特に子育てに対して育休や産休を取りやすい環境を学校も整える中で、3年育休を取るとなると講師が必要になる。昔はみんな育休1年で現場に戻っていたが、今は丸3年取る先生も多いので講師がいる。いろんな子育てをしやすい環境を整えるために、育児短時間制度があって「私は半日働きます」と働き方が選べる。そうするとそれを補うための教員がいる。ここに不足が出てくるわけである。具体的な話になったが、こういうところでの講師不足ということである。

委員長： 実際に学校で仕事をしているのは先生たちであり、そういった先生たちの働き方の実態の問題なんかもお話していただいて、今1学年3学級で2校ぐらい3学級ということで30人ぐらいとご意見出たが、もう少しご意見をいただければと思う。

委員4： 私自身が子供たちを中学校に通わせてみて、私が知識不足であるが、1学年に3クラスあれば9教科の先生はその学校に配属してもらえるのか。

事務局： 教員も常勤、非常勤いろいろな形があるが、教諭が必ず配置されるというのは決まってははいない。もちろん学校のクラスの状況であるとか、教科の授業の時間数によって教員が配置されていくことになるので、その教科で教諭がいなければ非常勤講師を配置してというような形もとっている。

委員4： 今質問させてもらったのは今までも説明会とかで話が出たと思うが、技術の教員がないから他の学校と兼務していたりとか、音楽の教員が複数校担当していたりする状況で、子供たちが何か質問したい、何か学びたいとなったときに、その教員がその日はうちの学校に来ないんだよってということが現状としてあるということも聞いた。そのあたりも先生たちがきちんと配置されるために、学級数がある程度維持されるということも一つ考えていただけたらと思う。

委員2： 本当にいろんなケースが考えられるが、簡単に言うと、技術とかは週1時間である。週1時間なので、9クラスということは、9時間である。9時間ではちょっと少ないが、その先生が例えば担任を持つと、学活、総合2時間それから特別支援学級なんかの授業に行くと、一概には言えないが、常勤として十分な数になる。

委員5： 技術家庭科の先生は少ないので、兼務や非常勤の先生が教えることがある。また臨時免許で本来教えたことがない先生が技術家庭科の授業をすることがある。クラス数が少ないとどうしてもそういうふうになってしまうので、1学年3クラス

委員4： ぐらいあれば、それぐらいが目安かなと自分の感覚としては思う。

うちの子がお世話になった技術の先生がとっても素敵な先生で、子供思いであるが、兼務をするにあたって、なかなか担任業務につきにくいということもちらっと耳にしたことがある。教員不足が叫ばれる中で、そういう志の高い先生が、その子供たちの人数とか学校の配置のことで思っている教育ができない環境が増えていくと、先生のなり手も減っていくのではないかというのは、その若い先生の姿を見て少し感じたところである。

委員長： 魅力的な教育者の育成まで考えてもらった。さっきの全教科の教員が大体配置しやすい環境として中学校は1学年3学級が必要ではないかというところで教員の数とか配置どうか。

- 委員 6 : 技術家庭の先生は、国語とか数学とかいう以外のいわゆる 5 教科以外の教科になりたいという今の学生は多いのか少ないのか。やっぱり 5 教科を主に取っていて、それからあと家庭科とかを取る。大学で専攻を取るわけではないのか。やっぱりなり手が少ないのはあるか。
- 事務局 : 実際に教科によって教員を志望する人数が大きく違う。技術などは特に講師すらいないような状況もあったりする。教科によって逆にすごくたくさんの学生がその教科の教員になりたいと思っているものがあれば、なかなか人材確保が難しいものもある。この教科がどうというのはなくてその年度年度によって違うが、希望するものが違うのかなと思っている。
- 委員 6 : 県教委が新採用を取るときに、技術家庭だから取るとかいう感じはないのか。
- 事務局 : 教科ごとで採用の枠が決まっている。そこに何人募集するかということかと思う。
- 委員 7 : 実際、玉野の教育で学力が全国的にも岡山で見てもちょっと低いところで、人数が少なくて切磋琢磨しないからそれが表れているのかという部分では、本当にそれが人数が少ないからなのか。先生の質も上げて、生徒の質も上がってくる部分で、学力の向上に関しての何か強い思い入れはないのか。実際、中学校に関して、その学力を向上させるっていうのは何か考えがあるのか。
- 委員 2 : 学力向上は、玉野市も力を入れている。私も入学式でも挨拶したが、とにかく学力は、あなたたちが生きていく上でのすごい財産になると、子供たちには言っている。今の学力っていうのは紙で測るだけの学力ではなくて、学と力の間、「ぶ」を入れて「学ぶ力」を意欲的に自分で学ぼうとする力も含まれている。多分どの学校も学力向上と授業改善は力を入れているところだと思う。そういう授業改善改革の時期に来ているので力を入れている。
- 委員 8 : 人数が少ないからというのが関係あるのか。人数が多かったら学力が上がるのか。
- 委員 7 : 人数が少ない状態でどうなのか。
- 委員 2 : 実際に人数が少ない状態で、子供たちに勉強しなさい、頑張りなさいという精神論ではなくて、自分が思うのは、子供たちが自分自身で勉強できるような仕掛けであったり、環境であったり、ここを変えていかないといけないと思っている。今の人数の少ない状況よりも、少ない中で子供たちに勉強しろという根性論よりも、周りの仕組みや仕掛けを変えて環境を変えるのも一つの手段かなと思う。
- 委員 8 : それは人数が関係あるのか。少ないからその仕掛けができないのか。クラス数が多いからできるのか。人数とかクラス数について。
- 委員 2 : 最初に話をしたが、今は先生から教えてもらうのではなくて自分たちで学んでいくスタイルに変わっている。そういった意味で子供たち同士が刺激し合って、学力を高めていくためには、少ないよりも多い方がというように自分は思っている。
- 委員 8 : 先生の手抜きじゃないのか。少ない方が基本的に教えやすいし、学ぶ環境としてはいいように思う。例えば多人数の塾に行っていて、塾の先生の目が行き届かない場合と、少ない人数の生徒に塾の先生も勉強教える場合って、少ない生徒の方がすごい得なような感じがする。
- 委員 2 : それなら今玉野市は少ない人数の環境の中でやってるんだから、いいはずである。
- 委員 8 : それが悪いのは、先生方の質というか、人数が少ないから悪っぽいって、僕は逆を考えてしまう。それは本当に人数が少ないからなのか。教員のレベルの問題なのか、教員の質というところに繋がるかもしれないが何かちょっと矛盾があ

ると少し感じている。何か関係があるか。

委員 2 : 教員の質が悪い、結果が出てないから質が悪いとは思っていない。他の地区に比べて。教員は異動もあるし、この地区は質が悪いとかいうものはない。均等にそれぞれの先生がいるので。

委員 8 : ということは人数が少ないから、玉野市は学校が多くて人数が少ないから教育学力が低いっていいのか。

委員 2 : 学力にはいろんな条件があると思う。地区であったり、育ってきた環境であったり、様々な要因があると思う。

委員 9 : ということは、人数は関係ないってことか。

委員 2 : そうである。人数は関係ない。

委員 10 : 人数が少ないから学力が低いとか高いとか、そういう話で言うと、自ら学ぶ力っていうのを先生が勉強を教えるんじゃないで、自ら学ぶ力、気持ちがないと子供は学ばない。いくら少ない人数で対面で教えてもらっても、本人にやる気がないと学力は上がらないと思うので、本人が学びたいという気持ちになる仕組みが、人数に関わってくるのかなと。人数が多い方が、そういう気持ちになる可能性がある。

委員 9 : ということは人数が多い学校が優秀で、人数が少ない学校は成績が悪い。

委員 8 : そうなるだろう。それだと。

委員 10 : そうとも限らないと思うが、可能性、いろんな人と触れることで、粘り強い子を見て、僕も粘り強くならなきゃなって思ったりする環境になり得る。少ないとその出会いが少なくて、可能性が低くなってしまふのかなと。可能性を高めるために、人数多いほうが可能性は高まるのかなと。学力に対しても何に対しても。運動でも何でもそうであるが、ある程度の出会いがあった方が本人の気持ちが高まりやすいのかなと思う。

委員 1 : 玉野市の小学校中学校の子供たちの学力は、高いのか低いのか。ちょっとその辺の現状がわからない。

事務局 : 学力がものすごく高いかという、そこまで高くはないという現状はある。本市の重点的な取り組みとして、学力向上は一つの大きな柱として取り組んでいるところである。教育委員会としては、もちろん規模によって学力差があるということも大きいから小さいからによってはバラバラである。学校によって違ったりもする。今支援として行っているのは若手の教員の支援、先ほど話に出てきた自ら学ぶ力であるとか、そういう授業に転換していかないといけない時期になってきている。今求められている力、それが身につくような授業ができるように支援をしている状況である。

委員 1 : ということは、学力が高い低いっていうのは、いろいろバラバラ。低すぎることもないし、高すぎることもない。私達が学んできた頃というのは偏差値で、その数値でね、学力という名を振り分けられたが、今はそうじゃなくて、いろんな力も学力というふうに評価、非認知の評価もしていこうとしている中でそれも学力という言葉の中に定義として入るのか。その辺も含めて、もう少し教えてほしい。

事務局 : 実際には今学力とってどうしても指標になってくるのが、学力テストであるとかそういった点数が指標になってそこだけが取り上げられてしまう部分もあるかなと思う。実際にそうではない部分を伸ばしていかなきゃいけないところもある。

もちろん、学力というか指標となるテストでいい点が取れることも大事だとは思
うし、それ以外の部分でもしっかり伸ばしていくことで取り組んでいるというの
が現状である。

委員 1 : 今の私達がこの会議で使ってる学力というのは学力テストの面での学力という認
識でよいか。

委員長 : これはそれぞれ定義づけていないが、先ほどの高い低いという点でいけばきっと
学力テストをベースにした議論で、それも一つの指標でいくと、決して驚くほど
高いわけではない。

委員 1 : 人数が少ないから低いと思う必要もないという理解でいいか。

委員長 : 一つの原因に求めるというのはとても難しく、その原因で次の原因を呼び込ん
でというふうにするにすごく複雑なものなので、こうだからこうとはやっぱり言えない
と思う。

委員 8 : 要するに人数は関係ないのか。

委員長 : ただこれから求める子供の教育や求める力に対して、それを実現しようと思っ
たときに、教員の力は当然必要になってくる。それを実現しようと思ったら。規模
が影響してくるのは今までの議論からも出てきたところである。というのも切磋
琢磨するのは教員にも必要なわけである。例えば、人数が少ないから、多様な意
見が出てくると言っても何を拾い上げて、どういう解決策に結びつけて議論を進
めていくのかとか、授業を組み立てていくにもすごく力が要る。それをしよう
と思ったら、子供の 1 人の発言をどう解釈していくのかとか、そこから子供の育ち
の芽をどう見ていくのかとか、それはやっぱり複数の目で研究していかないと授
業の力はやっぱりつかない。書いてあることを丁寧に教えていくという話では決
してなくて、どう転がってるかわからないものを、子供の学びに結びつくよう
にやっていくのはものすごく授業改善が必要。それをしていこうと思ったら、一定
数の教員の規模が必要で、いろいろ授業をお互いに見合うのが授業を見た上で、
今の授業どうだったのか、この子の発言をどう解釈したらいいのか、これをどう
繋げれば解決に結びつくような力がつくような議論になったのかとか、ものす
ごく時間が必要なことで、それを例えば今まででいくと、人数が少ないと研修する
時間も取れない、お互いの授業も見れない、よその学校が何してるのか研修の
時間も抜けられないような実態があることは、どうも今までから聞いてきたので、
学力をつけるためにも先生たちの力もつけないといけない。そのためには、一定
数の規模の学校が必要だという話は、何か今までの議論からするとちょっと成り
立つのかなと思う。1 個の議論、原因でこれが解決するってことはないが、これ
から求められる広い意味での学力を身に付けようと思ったら、条件としては、一
定数の規模がないと教員の力をつけるのは難しいのかなと。

委員 9 : 子供のために教育してるのか、学校の先生のために適正な人数にするのかよく分
からなくなってきた。

委員 8 : 同意見である。

委員 9 : 学校の先生の人数やカリキュラムの組み方とか、そういうものは、もっと別次元
の話じゃないか。学校の人数適正というときに、子供のことが第一にこないで、
先生のことを第一にしてそれは別次元で解決できることなんじゃないかなと思
う。学校潰すことと関係ない。

- 委員長： 子供のために学校の先生たちの力をつけるとか、環境だとかいうところは少し違う次元なんじゃないかと。子供のために何かという直結するところで議論したらどうかというようなご意見である。これに関していかがか。一つの考え方として、先生たちの環境というのも、より子供のための条件の一つとしてあるんじゃないかという議論もあったが、それはちょっと別次元じゃないかというご意見も一方でできている。
- 委員 6： うちの一番上の子が大学生になってるが、中学校のときに高校を決めている。進学をするときに、いろんな人の意見「自分はどうする」という話が3年生の中で出る。そのときに3人だったら3人の意見しかないけど、10人いたら10人の意見が聞けて、この人が高みを目指すから俺も頑張ろうかなと一生懸命勉強するっていうのもあると思う。例えば、うちの子なんかは大学をもうここに決めた、行きたい。それに対してどう行動するのがいいかっていうことで高校を決めた。大体、今の子供たちは大学を決めずにはまず高校を決める。何になりたいかという、とりあえずどの高校に行くかっていうことを中3で決める。そのときにいろんな意見を聞いて俺は将来何になりたいとか、そしたらこの勉強するのがいい。もう高校出て就職するから商業がいいやとか、そういう話をするときに、いろんな話が聞けるっていう状況を作ってあげたいなって思うのは親である。ただ、あまりに少ない人数よりはやっぱりいろんな人の意見が聞ける、100人いればいいかといえそうではないが、いろんな人の意見を親の意見もそうだし周りの意見、先生も1人だったら1人の意見しかないけど、いろんな先生がいて、その中で、様々な多種多様な意見があるっていう、そういう人数がいたらいろんな意見を中学校3年の一番大事な時期に聞けるっていう状況を作ってほしいというのが、私の意見である。
- 委員 2： 委員 9 から、先生のため、子供のため、どちらなのかというような意見があったが、とにかく子供のためというのが最上位である。もし教員のためというのが上に来ているような感じでとられていたら、すみませんそれは違う。子供のためという最上位の目標があって、教育は人なりですけども、この子供に対して一番関わられるのは教員なので、この関わられる子供に対して、下からこの最上位の目標に向けて支えてやるのが教員なので、ここもやっぱり高めないと、この一番上が高まっていけないというところで話をさせてもらっているんで、最上位の目標は子どものためである。
- 委員 4： もちろん子供のためで、私もその先生方のことを思って話をさせてもらった。先生たちが本当に激務だというのは報道でもよく聞かれていることだと思うし、視察に行ったときにも、1学年1学級の中学校だと国語の授業をするにしても、1回だけする授業のために3つ授業準備をしないといけないという話が多分皆さんも聞かれたと思う。もしそれが1学年に国語の先生が1人いて、その先生が同じ授業3クラスを回れるとしたら授業時間に割く時間は1回で済む。そしたらそれ以外の時間は子供たちに関わる時間を取れるのではないか。その子供たちのためにいい教育とかいい関わりをしてもらうために、先生たちがどうであるのがふさわしいかというつもりで多分皆さんここで発言されているのではないかと思う。
- 委員 9： でもやっぱりその印象としては先生の問題である。例えば先ほどの3回行けるというようなことは僕は問題だと思う。大人側が別の方法で解決できる問題だと。

それを廃校にして解決するやり方は違うと思う。例えば県の教育委員会とか、別の方法で例えば、技術の先生が足りない。技術の先生が足りないから閉校にするのではなくて、大学でちゃんと技術の先生を養成しましょう。これ大人の問題だと思う。何でそれを子供の問題だと言い換えるのか理解できない。

委員 11： 私は委員 9 の意見を聞きたいと思うが、私も 1 学年複数クラス以上が希望である。やっぱり教員数の適当っていうのは生徒にとって充実した教育になるのではないかとということとか、部活動や集団活動で競争が生まれたり質が高まるのではないかと宇野中でお伺いしたときに、不登校が多いという話はあったが、それに対応できる教員数があるとか、先生のどうかこうっていう問題が、生徒とか子供のためになると思ってそういう意見を持っているが、子供のために適正規模を考えるっていうことは、それ以外にどういった検討の方法があるのかを聞きたいと思う。

委員 9： 私は教育関係者というわけではないので、例えば大学の環境とか教育環境とか、そういうものを熟知しているわけではないが、こういう方法があるということをも的確に言えるわけではないが、私はその先ほど言ったように理解ができない、わからないと思って質問した。解決方法は他にいいのか。廃校にする以外に他にいいのかと言われたら、先ほど委員長が言われたように探す。答えがないものの中から探していくのが大人だということである。教育とは何か。やっぱり目的を持って教育を語らないといけない。先ほど 委員 2 が言われたように教育は人だと思う。そこを抜きにして、人数合わせだけすればいいということではないと思う。現状で人数が多い方が優秀な生徒ができるのか、少ない方が優秀な生徒ができるのか、それはそれとして方法論は、大人がもっと別の方法を考える余地があると疑問に思ったということである。

委員長： 適正規模を考える際に、教員の理由だけを一番に持ってきたわけではないのは間違いないことで、いくつか考えられる観点の一つ、条件の一つとして子供の環境のためにはあるよねということ。例えば働き方の問題、教員不足の問題、教員の力量に関して規模で解決しようと考えてるわけではなくて、そういう課題に関しては、規模が大きかろうと小さかろうと解決しないといけないことなので、こういう問題も出てきているので、研修の問題かもしれない。あるいは人数の確保の問題かもしれない。玉野市だけの問題ではないかもしれないので、難しい問題もあるが、それは書けることかなとは思っているので、書き方としてその理由というのは表に出ないのは確かかなと思う。改めて子供に直結するところで、規模が 3 学級というのはクラス替えができるというような規模、あるいは 2 学級より 3 学級がいいということ。その子供に直結するであろう積極的な理由づけ、あるいはそうである必要がない。やっぱり小規模がいいという積極的な理由づけが、もう少し補足できてもいいのかな。少し外壁というか、二次的な運営面、教員面のところが出てきました。一つは、いろんな意見が聞ける。モデルにしていくとか、自分を改めて振り返ってみてもっとこういう可能性があるとかの非認知も含めた学びへ向かう力であるとか、そういったところの育成に一定の他者がいた方が好ましいだろうという意見があった。一定の他者というので人数は大体 30 人ぐらいの学級で 3 学級ということだったんですが、もっと少ない方がいいということに対するご意見とか、少し子供に直結するところでも理由付けになってくるかな

と思うがそのあたりいかがか。やっぱり複式がいいんだとかあるかもしれない。

委員 4 : 私自身一番大きな中学校に通っていた。今玉野市では 35 人学級と思うが、ある学年は 35 人ギリギリで、3 クラスにするか 4 クラスにするかという学年があったが、中学校の中で 4 クラスに編成をしたということを聞いた。その理由は、先ほどから言われているように、協働学習をするとなると、今までの私達が思っている授業スタイル、黒板を向いて、授業を受けるというスタイルではなく、班活動というか、机を 4 人 5 人合わせてする授業スタイルに転換していくことを考えると、逆に 35 人ギリギリだと少し手狭だったから、3 クラスでも組める編成だったけど 4 クラスに編成を変えたということを聞いた。今現状も荘内中学校で多分どのクラスも 30 人弱じゃないかなと思うが、そのぐらいが協働学習を進めていく上では、教室の使い方で、それからグルーピングするに当たっても、いろんなメンバーと組み替えができるということでも 25 人から 30 人ぐらいが適切なのではないかな。小さい学校だと、そのグループが変えられない環境。そのグループも、その都度授業によって、時期によって変えていける環境も、多様な考え方とかいろんなモデルに触れるということでは大切かなと思う。

委員長 : 協働学習という点で 30 人、25 人から 30 人ぐらい。

委員 9 : 25 人から 30 人という話ですけど、20 人じゃ駄目なのか。

委員 4 : いや絶対駄目というわけではもちろんないが、20 人になると多分、男女比率を考えて 10 人、10 人ぐらいかなと思うので、もうプラス十何人ずついた方が、グループをするにしても何にするにしてもいいのかな。その根拠が何か明確なものが、あるというわけではないが、何となくクラス活動している様子を見ると、25 人いたらいい。活動が、学校行事、合唱とか体育会とかいろんなことをしていく上でも、そのぐらいいる方が学級として運営がしやすいのかなというのは保護者目線から見て感じた。

委員 9 : 先ほど 3 クラス 4 クラスという話ですけど、これ 8 クラスじゃ駄目なのか。

委員長 : 1 学年で 8 クラス？

委員 9 : 1 学年 8 クラス、私は 8 クラスだったので。

委員 3 : 個人的には僕は 8 クラスでもいい。

委員 4 : 別に私自身はどっちでも。

委員 8 : 現状を考えたら 8 クラス。例えば少人数 20 人のクラスが 8 クラス。それはいい。

委員 3 : 20 人から 25 人というのは、正直これもわからないけど、要は、児童数が多い方が子供の選択肢もすごい広がると思う。5 人のクラスでやりました。選択肢がすごい狭まる。部活にしても、イベント行事にしても運動会にしても、なかなか少人数じゃできないと思う。子供の選択肢を広げてあげるのが大人の仕事ではないかなと思う。だからその 20 人、25 人、30 人というのはこれから詰めていけばいいだけで、まずは検討委員会としてどうしていくべきかの方向性を言っていかないとずっと繰り返すと思う。

委員長 : 人数は決めない方がいいか。

委員 3 : いや人数を決めていけばいいとは思いますが。

委員 2 : クラスの人数はここで決めるものではなくて、学級編成に関する法律で 1 クラス 35 人以下というふうに決まってるので、20 人にして振り分けて 8 クラス作ろうとか、そういう議論はちょっと。ただ、35 人前後のときには学校裁量で弾力化と

言って、三つにするか四つにするかは、そういう裁量がある。もう法律で決まっているので、人数ではなく、今言われたようなところに議論を進めていってもらえたらと思う。

委員長： クラス活動とか行事とかの充実に対応するということで、35人は法律の話なので、もう少し皆さんご意見があれば、玉野市として少人数で30人ぐらいを進めたいということ盛り込むことは可能だが、20人でということは35人という基準に対して、小規模の教育の良さを売りたいというのであれば載せることは可能というくらいである。

委員8： その人数とかクラスのこと私の経験で話させてもらいたい。私3人子供がいて、手短に話すと次女が小学校2年生で不登校になり、今5年生になって、3年かけてようやく教室に上られるようになった。その理由の一つとしては、クラス替えもなく、今のクラスが20人のクラスであるが、すごくいい子たちばかりで、うちの娘がたまに授業に行くと少し声をかけてくれてそういう環境で何とか5年生になって、ほとんどの授業に参加できるようになった。もしそれが3クラスの大人数の学校だったらどうだったのかな、というのをすごく考えることがある。クラス替えがあるたびに、多分次女行けなくなると思う。一概に全ての学校が多いクラスだけの学校にするのは、なんか逆にうちの娘のことを考えると、逃げ場がないんじゃないかな。それをすごくこの会議に参加しているときにどのみち統廃合していくんだろうなどは何となくね。他の市と比べて学校数が多いので仕方ないのかもしれないが、少しそうした面も配慮してもらえたら、うちの娘みたいな子供が学校に行けるような形になるんじゃないかと思っている。

委員1： 今のご意見に補足ですけど、私も地区でいろんな方と話をして、やはり多い人数の中になかなか対応できないお子さんのために小規模でも勉強できるところは必要だというご意見がいくつかあった。例えば1学年3クラスの学校の中にそういう支援を必要とする方のクラスを作ってやっていけばいいんじゃないか。学校別にするのはではなく、いろんな問題があるから、仮に中学校が玉野市に2校ある中で、3クラスのところと、もう一つその支援を必要とするクラスを持った形でもいいんじゃないか。

委員12： 私は長い間教員で今日はコミュニティの代表で来ているが、コミュニティの立場で話をさせてもらおうと、コミュニティは学校がなくなれば衰退するとか、そういった意見は確かにある。その通りである。学校がなくなってしまうと、当然コミュニティは衰退するが、その裏には今までと同じコミュニティだったら衰退するのであって、学校がなくなればコミュニティも違っていかないといけない。私の住んでいる地区の幼稚園がなくなった。でも、和田には何人か子供もいる。小学校に行っている。したがってコミュニティの総会には、日比幼稚園の園長先生も来てもらって、とにかく盛り上げていこうと。それからコミュニティのいろんな行事がある。今までは学校があったら、学校にお願いしていたがなくなってしまう。だけど学校や幼稚園はないけれども通ってる子供がいるということであれば、例えば、日比中と玉中が合併して日比中がなくなると。それでも、日比中の学区だった子供は玉中へ行っているわけである。したがって、玉中にどうぞ和田の行事に参加してくださいとできたら、玉中の学区の子供も来ていいですよ。学校のあり方によって、子供たちのために学校がどうあればいいか、地域が今後の

あり方を検討していかなくちゃいけない問題だと思っている。したがって、地域は衰退して地域がなくなるから統廃合反対だとかそういう意見もあるが、私はそうではないと思っている。ずっと経験したら、3 クラスとかクラス替えができるような規模は必要ではないかと思う。先ほど1学級8クラスと言っていたが、私のときは10クラスあった。日比中学校、550人が1学年にいた。教室が狭くて後ろをこうやって通っていたような状態だが、やっぱりある程度は人数が必要じゃないか。それが子供たちのためじゃないか。それによって、先生方の研修はどうするか。学力を低下させないようにやっていこうということも必要ではないかな。複数の免許をってる人がいれば学校を兼務しなくてもいいというのはあるが、なかなかそれは難しい。だからそういう点から考えたらある程度の規模を、クラス替えをするというのは必要じゃないか。それによって地域はあり方を考えるべきだ、そういうふう思う。

委員長： 地域前提で考えていたが、コミュニティも変わらないといけない。みんながそれぞれ次の時代に向けて進化しないといけないというご意見はごもっともだし、その通りだなと。今日結論めいたものが出たというふうに言えないが、今出たのは3学級クラス替え前提で、3学級で25人から30人くらいで、中学校ということを前提に皆さん議論してたのは大丈夫か。小学校と少し議論が一緒になってないか。子供たちは部活ができるというような意見が比較的多かったが、3学級になって、25人から30人くらいで多様な教育活動ができてというようなところでこれ一通りの結論にしていいのか、少し議論を持ち越したいか。小学校もしながら。

委員9： 例えば部活動の方面とか、コミュニティの方とか少し議論を進めたいと思っている。

委員長： 委員の皆様方がいかか。もう少し中学校に関して議論を進めたいか、それとも小学校の規模を次考える中で、今出たご意見をまとめて皆さんにお返しして、それに対して次は小学校の予定であるが、小学校も検討する中で必要であれば中学校のところも含めて検討していくという形で今回の結論として、3学級というところで定めておいて、絶対の結論じゃないので戻りつつという形で、議論を次の小学校に向けて進めていくという形にしたらどうか。

委員8： 3学級は決定なのか。

委員3： 1学級が大事という意見もあるんで、多分それはそれで、これまでの意見で反映されるんですよ。

委員長： 残すときに大きく大原則としてはクラス替えで3学級くらいということを出しつつ、状況に応じてはこういうことも考えられると付け加えても許されるのかどうかということか。

委員9： 適正規模という適正である。3学級がいいのか5学級がいいのか8学級がいいのかという、ある程度の適正はこのくらいということではないのか。

委員長： 適正を今のところ3学級くらいというご意見が出た。

委員9： なんで3学級が。

委員長： 全教科が一つはある教員が。

委員9： 最低ね。だから5クラスがいいのか、8クラスがいいのか、例えば東西で2つの学校、東校と西校を作る話なら、ある程度の規模ができるようになるだろう。

委員8： 中学校2校でも3学級か。

- 委員 2 : 2校になるともうちょっと。8クラスまではいかないが。
- 委員 8 : 3クラスになったら何校必要ですか。
- 委員 2 : 単純計算すると3つか4つ。ただ、今の人数からずっと減ってくる。だから3つ。
- 委員 9 : 3校にしてもいずれ2校になるということですか。
- 委員長 : あり得る。
- 委員 2 : 3クラスにこだわってしまうと、今は3つでも、いずれ2校になってしまうので、10年20年先を考えて取り組んでいかないと難しい。
- 委員長 : そのあたりの推移は、10年後ぐらいには同じ検討を繰り返すことが起こり得るけど。
- 委員 9 : それを考えると、適正規模を考えることがいい方法なのか。もっと別の方法を探す道はあるか。
- 委員長 : 規模と配置の観点から考えて、あくまでも答申をお返しするという事なので、その意義からは少し検討できる。
- 委員 10 : その答申は3クラスというのが今じゃなくて、10年後20年後に3クラスの学校が存続できるようにという答申か。10年後20年後を見据えて、その頃にも3クラスぐらいに維持できるようにという答申か。
- 委員 2 : 10年後20年度に3クラスを維持できるようにというのが理想だと思う。
- 委員 10 : だから今、もしかしたら4や5クラスになるかもしれないということか。
- 委員長 : 一時的には。
- 委員 2 : そうである。
- 委員長 : もちろん人は推移するけれども、何となく見通しとして考えていただけたらと思う。
- 今回までの議論を1回整理して、皆さんにお返しして、それをたたき台に次の議論をしていこうと思う。
- 事務局 : 次回も答申に関わる内容ということで、会議は非公開ということでよいか。どちらでもという方も、どちらかに決めていただけたらと思う。
- 委員長 : もう今決めておいた方がよいか。
- 事務局 : 次にもし決まっていなければ傍聴の人が来られて、会議の最初で非公開なのでお帰りくださいになってしまうので、あらかじめ決めておいた方がいいと思う。
- 委員長 : 次回、答申の内容に関わる内容について非公開でいいという方は、挙手を願う。
- (賛成7、反対7)
- 委員意見 :
- ・何か公開しないことで何か言われなかなというのが私は怖いというか逆に怖い。
 - ・僕もみんなに聞いてほしい。
 - ・自分が思ったことを、正しいと思ったことを言っている。
 - ・みなさんが話しやすいのであれば、意見を変えてもよい。
 - ・このように意見ができれば、公開でもいいと思う。
- 委員長 : 1回公開にするか。同じことが再現できるか。今回空気を味わって、話ができたという感覚を得たので、それと同じことが人の前でも再現できるかどうかをやってみるのもありだ。次回は公開で。